

資料 2

第2回訓練から得られた課題

平成19年1月15日(月)
食品安全委員会事務局

実動訓練の目標

- 緊急対策本部設置に向けて、緊急対策本部事務局を設置し、その手順を確認する。
- 緊急時対応を迅速かつ適切に行うとともに、実践能力の向上を図る。
 - 事務局内での情報共有をしっかりと行う。
 - 緊急時のマスコミや消費者からの問い合わせ対応を確認する。

第2回訓練の評価方法及び評価内容について

1. 評価方法

評価者によるチェック(評価シートの活用)

訓練直後の反省会

アンケート調査

総括会議

2. 評価内容(訓練目標)

緊急時対応について

- 対策本部設定の手続きを確認する
- 情報の共有体制を確認する
- 外部からの問い合わせ対応を確認する

訓練の運営について

評価シートによる評価

- 評価者により確認された課題
 - 評価シート
 - 基本事項 約60%達成
 - 各班役割 ほぼ100%達成

**班として実施すべき事項は、一通り実施できた。
緊急時対応の基本的な能力についてはさらなる
向上の余地がある**

基本事項の実施状況(評価シート)

項目	総括	情報	広報
電話受発信時に、自らの所属、氏名を名乗っているか。			
電話受発信時に、相手の所属、氏名を確認しているか。			
電話受発信時に、訓練通報である旨を伝えているか。			
電話受発信時に、伝達事項のメモを取り、反復確認を行っているか。			
FAX等の受発信文書を、必要に応じて掲示する、ファイリングする等して、整理しているか。			
班内での情報共有を進めているか。			
班内での情報共有を進める際に、有効な手段にて実施しているか。			
状況の推移を時系列に整理しているか。			
班内(もしくは班長)への報告を行っているか。			
班会議で指示された対応体制が取れているか。			
=1, =0.5で集計, 全項目が の場合 = 10	6.5/10	6/10	6/10

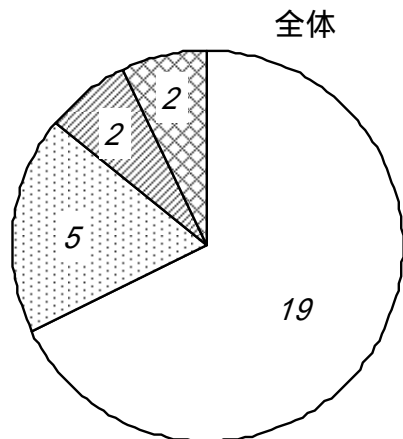
- 全ての班について情報の整理・共有に関する部分に課題がある。

訓練当日のアンケート質問項目

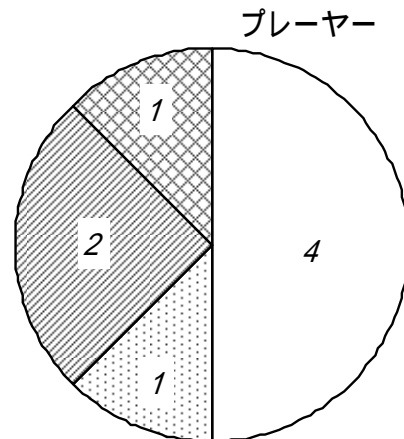
緊急時対応について	訓練の運営について
<p>全般</p> <p>本部立ち上げ手続き</p> <p>事務局内情報共有</p> <p>外部組織等からの情報収集</p> <p>外部組織等への情報提供</p> <p>メディア対応</p> <p>消費者向の情報発信準備</p> <p>良かった点(自由記述)</p> <p>課題点(自由記述)</p>	<p>全般</p> <p>訓練の構成</p> <p>付与情報の頻度</p> <p>良かった点(自由記述)</p> <p>課題点(自由記述)</p>

緊急時対応について(全般)

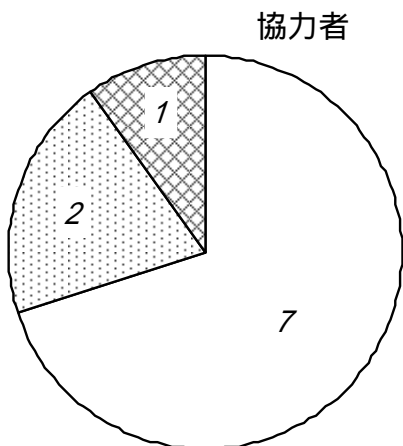
● 「概ね上手くいった」という回答が多い。



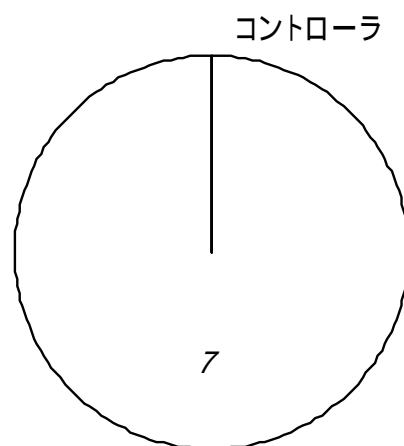
- 概ね上手くいった
- 課題が多い
- ▨ どちらでもない
- ▨ 無回答



- 概ね上手くいった
- 課題が多い
- ▨ どちらでもない
- ▨ 無回答



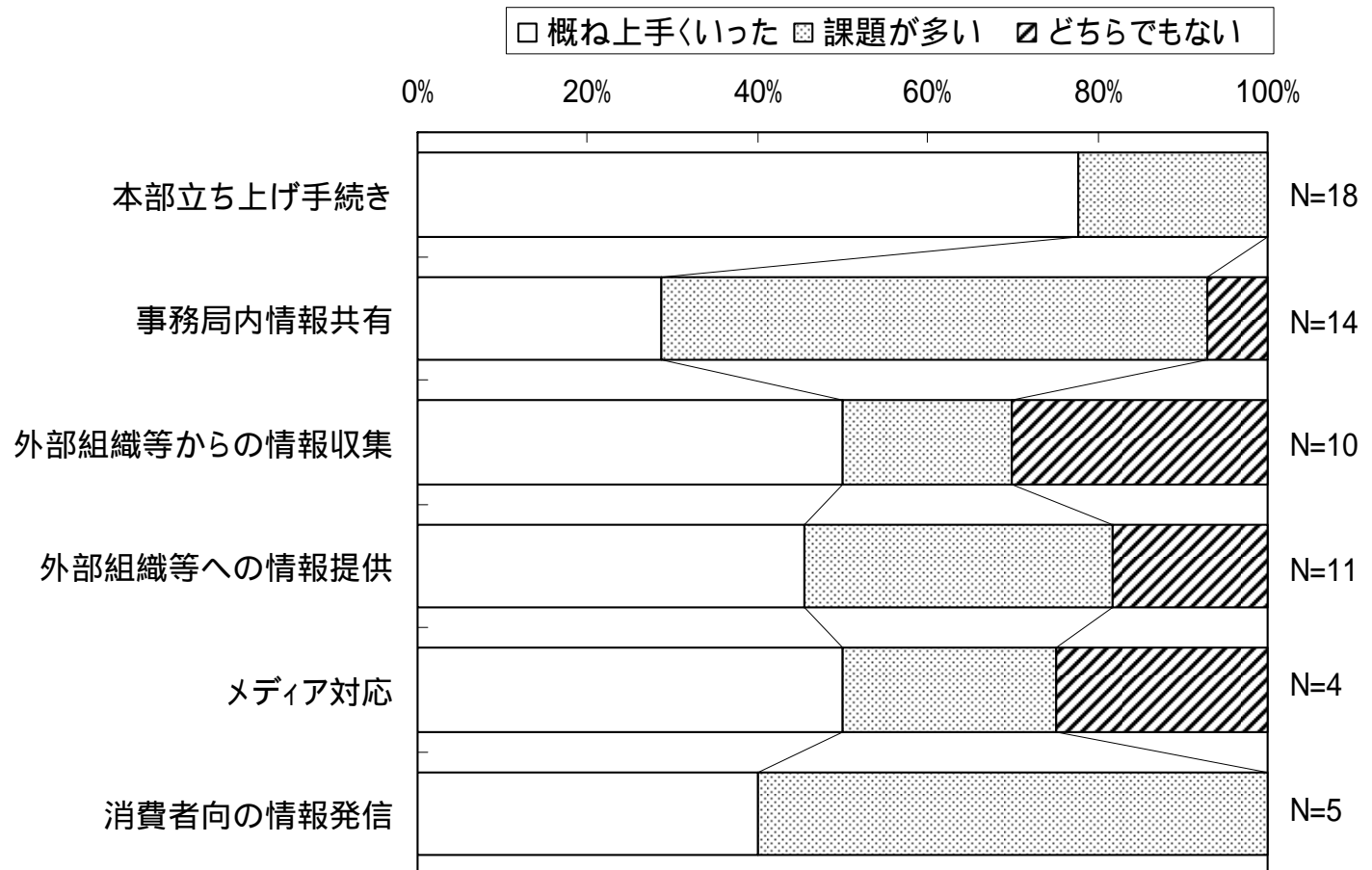
- 概ね上手くいった
- 課題が多い
- ▨ どちらでもない
- ▨ 無回答



- 概ね上手くいった
- 課題が多い
- ▨ どちらでもない
- ▨ 無回答

アンケート調査により確認された課題

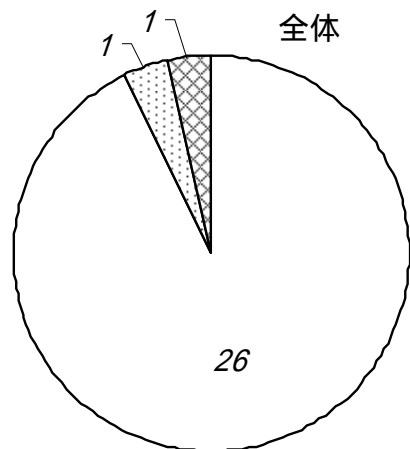
- “「本部立ち上げ手続き」以外は概ね上手くいった”が50%以下



訓練の運営について

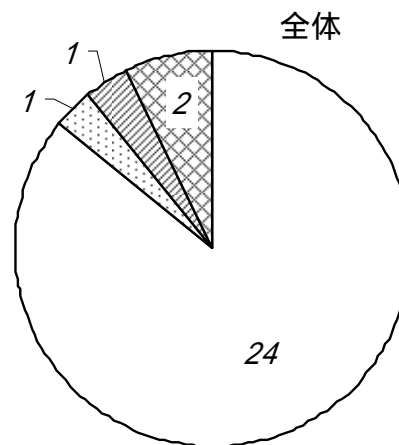
● 訓練の運営全般及び構成については「良い」が多かった。

全般



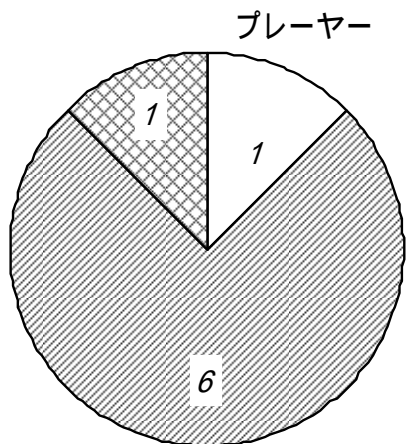
- 良い
- 課題が多い
- どちらでもない
- 無回答

訓練の構成

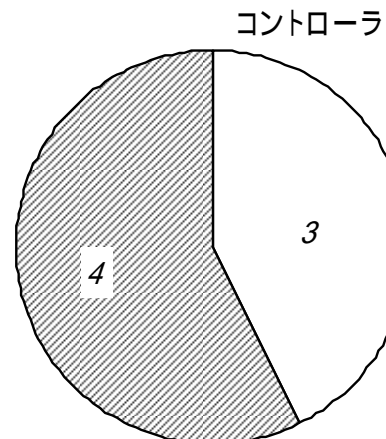


- 良い
- 課題が多い
- どちらでもない
- 無回答

付与情報の頻度



- 多すぎる
- 少なすぎる
- ちょうど良い
- 無回答



- 多すぎる
- 少なすぎる
- ちょうど良い
- 無回答

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 緊急時対応(手順等)について -

- 短時間に大量の書類が作成されるので、不要書類はシュレッダーにかける、書類の色分けやナンバリング等、書類の整理に関する手順をきめておく必要がある。
- マスコミや一般消費者からの問い合わせに対する対処法をマニュアル化する必要がある。
- 実際の発生時を想定した場合、問題が起こっている自治体などとの連絡や情報共有体制について検討しておく必要がある。
- 消費者からの問い合わせ等は録音しておいた方が良い。

食品安全委員会事務局員のコメント

- 緊急時対応(手順等)について -

- 緊急協議を行わないと対策本部が立ち上がらないという二重構造を見直す必要がある。緊急協議は電話会議にしたり、資料を思い切って割愛するなどの合理化を図る必要がある。
- 班の役割、指示系統・連絡系統、前もって各省庁と調整すべきことなどを再確認する必要がある。
- 様式の整備等の必要な事前準備を整理するとともに、具体的な手順を記載した手順書を作成する必要がある。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 緊急時対応(情報共有)について -

- 情報共有の簡易さから作業は一室に集まって行う方が良い。
- 全体の状況(事態の進行、各班の作業状況等)がわかるようにする必要がある。
- 関係者間の情報共有の方法の見直す必要がある。
(活用しやすくするため共通様式を作成し、共通の保存方法などの手順を決めておく必要がある。)

食品安全委員会事務局員のコメント

- 緊急時対応(情報共有)について -

- 情報共有を図るため、関係者は同じ部屋で作業をするなどにより、各班の進行状況、全体の進行状況をすぐに把握できるように体制を整える必要がある。
- メール、共通ドライブ等での情報共有は難しいので、電話、紙ベースでの情報共有が良いのではないかと。
- 事務局内での情報共有体制を見直す必要がある。
(紙による配付もかなり大変である。ホワイトボードの活用による情報共有は分かり易い。)

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 訓練の運営等について -

- 色分けゼッケンはわかりやすくよかった。
- 参加者への事前説明が何度も行われており、訓練の目的と各自の役割について十分な理解が得られていると感じた。
- 対策本部立ち上げ作業に終始していた感があるのは残念。
- 経過時間によって作業量が多い班と比較的手空きになっている班があり、作業分担の平均化、補助等の工夫が必要。
- 外部からの問い合わせは更に様々な角度からの質問があってもよかった。

食品安全委員会事務局員のコメント

- 訓練の運営等について -

- ゼッケンで参加者を明らかにしたことはよかった。
- 事前に付与情報が予め、複数回にわたって説明があったのでイメージし易かった。
- 対策本部立ち上げの手順を確認し、実際の緊急時に備えての組織課題について共通認識を持つことができた。
- 事前に一部のシナリオを教示されていたことで、協力者としての対応の一助となるとともに、必要に応じた追加対応も可能となったが、協力者の位置づけがよく分からなかった。(どこまで関与すべきなのか)
- プレーヤーの数が少なすぎたのではないか。現実の緊急時対応ではもっと多くの人間が関わるのだから、訓練参加者を増やす必要がある。
- プレーヤーの数に対して付与情報量が多すぎたのではないか。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 今後の訓練について -

- それぞれの訓練を通して、緊急事態の種類や対応を整理しておくが良い。
- 机上シミュレーションと実動訓練を同じ局面、同じ参加者に対して行くと、机上シミュレーションがどのように実動訓練に活かされるか、評価しやすいのではないかと。
- 指針の実効性を検証することが訓練の主要な目的の一つである。訓練が指針のどの部分に該当し、結果と実効性の検証がどう対応するのか、より明確にすることが望まれる。
- 訓練は継続して行われることが必要。

食品安全委員会事務局員のコメント

- 今後の訓練について -

- 緊急時対応の各段階における判断、手順等を訓練で取り上げる必要がある。
(委員長談話の発表、臨時食品安全委員会の開催、専門委員への対応など)

第2回訓練から得られた課題（案）

- 緊急時対応について -

1. 対策本部設置の手順について

- 緊急時対応における作業内容等を見直す必要がある。
 - 班の役割を再検討し、指示系統・連絡系統等を再確認する。
 - 緊急協議の方法を検討する。
 - 同室での作業を検討する。
- 対応記録等の記録の取り方を確認する必要がある。
 - 様式を整備し、事務的な作業の手順書を作成する。

第2回訓練から得られた課題（案）

- 緊急時対応について -

2. 情報共有体制について

- 事務局内の情報共有体制を見直す必要がある。

ホワイトボードの活用、情報の共有ルールを具体化する。

3. 外部からの問い合わせに対する対応力や判断力について

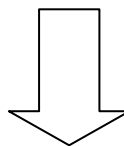
- Q & A等を事前に作成する等の対処方法をマニュアル化する必要がある。

対応マニュアルを作成する。

第2回訓練から得られた課題（案） - 緊急時対応マニュアルの適確性について -

< 関係府省連絡会議(局長級会議)が開催され、緊急協議を開催することを決定した状況における「緊急時マニュアルの適確性」について >

班の役割の見直し、緊急協議の方法の見直し等、緊急時対応マニュアルの一部の見直しを検討する必要がある。



今後、様々なステージにおける実動訓練を実施することにより、緊急事対応マニュアルを検証する。

第2回訓練から得られた課題（案）

- 訓練の運営について -

< 今回の訓練について >

- ▶ プレーヤーの数、協力者の位置付けを再検討する必要がある。

第2回訓練から得られた課題（案）

- 訓練の運営について -

< 今後の訓練について >

- 緊急時対応の各段階における判断、手順等を訓練で取り上げる。
(委員長談話の発表、臨時食品安全委員会の開催、専門委員への対応など)
- それぞれの訓練を通して、緊急事態の種類や対応を整理する。
- 机上シミュレーションと実動訓練を同じ局面とし、同じ参加者に対して訓練を行い、机上シミュレーションが実際にどのように活かされるかを確認する。
- 訓練が緊急時対応マニュアルのどの部分に該当するかを明確にし、訓練結果とマニュアルの実効性の検証がどう対応するのかを明確にする。
- 訓練は継続して行われることが必要。